



新市誕生から 20 年 広がる、深める 郷土のあゆみ

新市誕生から 20 年が経過しました。この間、地震や雪害、人口減少など、さまざまな出来事を経て社会環境は変化しました。その変遷を歴史資料などからたどり、各地域のあゆみを振り返ります。

問合せ先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

第 5 回 移住者有志により開始され、地域を支えた小学校

岩見沢村の移住者有志は、明治中頃から私塾を開き、こどもたちに新天地で生きていくための力を身に付けさせました。東町や元町では明治 19 年、国から施設を譲り受けて私塾の入徳学舎と蛭雪学舎を開設しました。蛭雪学舎は、後に岩見沢尋常小学校となり、志文や幌向など村内各地に分校を開設するほか、北海道炭礦鉄道会社本社の岩見沢移転に伴い、分校を開設し児童を受け入れました。岩見沢尋常小学校は、明治 29 年大火の際に避難所になったほか、農会の行事や農産物品評会の開催など地域の経済活動を支える場にもなりました。

石狩川流域の大農場経営から誕生した北村でも、移住者有志が明治 27 年から私設の教育場を設置し、これらの教育場は後に流域各地の尋常小学校となりました。石狩川に近い幌達布小学校は融雪期には毎年のように洪水被害に見舞われましたが、運動会などの行事はもちろん、青年団の活動拠点の場でもあったため、地域住民が一丸となって学校を守り続けました。

栗沢村でも幌向原野の移住者有志が、明治 27 年頃から必成や砺波など各地に私設の教育場を設置し、後に各地の尋常小学校となりました。石炭の採掘が始まった万字地域では明治 39 年に簡易教育所が開設され、後に万字小学校となり炭鉱の発展とともに児童数が急激に増加していきました。山あいの限られた敷地の小学校は、校舎の増改築を重ねたほか、2 部制の授業を取り入れて急増する児童に学びの場を確保しました。また、児童たちは芝居や映画などの新しい文化に触れる機会にも恵まれました。このように各地域の小学校は、移住者有志により開始され、その地域の自然条件や目まぐるしい社会環境の変化を乗り越え、教育だけでなく地域の豊かな活動を支える役割を担いました。



増改築を重ねた万字小学校(昭和31年9月)

キラリ！その瞬間

市内のできごとをお伝えします！



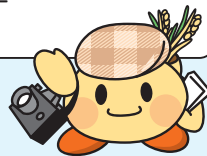
7月4日(土)
いわみざわ彩花まつり観光踊り

人の動き

住民基本台帳（令和8年6月30日現在）

人 口	男	33,601 人	（前月比 - 30）
	女	38,436 人	（前月比 - 44）
	総数	72,037 人	（前月比 - 74）
うち外国人		551 人	（前月比 + 2）
世帯数		39,980 世帯	（前月比 - 30）

広報紙に関するご意見・ご要望は、はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-9977）、Eメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）、総務部秘書課広報室へお願いします



岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
☎ 0126-23-4111（代表） FAX 0126-23-9977



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram

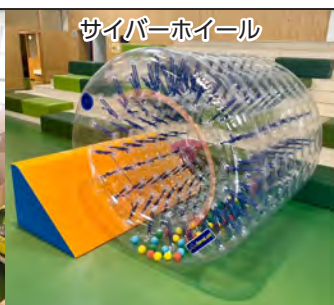


LINE

あそびの広場



はらっぱひろば



サイバーホイール

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号 2 枠（申込多数の場合は抽選）
掲載料 各号 1 枠 22,000 円
申込期限 掲載希望号の 3 カ月前の月末
（11 月号に掲載希望の場合は 8 月 31 日(月)までに申し込み）
申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518